

参 考

- 1 標準化死亡比（Standardized Mortality Ratio：SMR）の定義は次のとおりであり，年齢構造の影響を取り除いた死亡率の指標の一つである。

$$\text{標準化死亡比（SMR）} = \frac{\text{実死亡数}}{\text{期待死亡数}} \times 100$$

実死亡数 = 観察集団の全年齢死亡数

期待死亡数 = {観察集団の年齢（階級）X歳の人口×基礎集団のその年齢（階級）X歳の死亡率}の各年齢（階級）についての総和

すなわち，期待死亡数とは，年齢（階級）別死亡率が基礎集団（通常は全国）と同じであると仮定したときに期待（予測）される死亡数であり，実際の死亡数をこれで除したものがSMRである。

したがって，SMRは低い方が望ましく，SMRが100を超えていれば，年齢構造の違いを考慮してもなお，死亡率が基礎集団よりも高いことを示すものである。

- 2 ここに掲げたSMRは，平成27年～令和元年の5年間の死亡データを基に計算した，全国を基礎集団とするSMRである。

注：具体的に用いたデータ等は，次のとおりである。

死亡数：平成27年から令和元年までの5年間の死亡数

年齢階級：5歳階級{(0~4歳)，(5~9歳)，…，(75~79歳)，(80歳以上)の17階級}を用いた。